

## 1. 施設運営に関して

### (1)利用者支援

①施設の稼働日数(利用者出勤日数)は 254 日、祝祭日等におけるイベント販売や夜の宴会を 96 回実施した。イベントにおける授産収入は 683 万円、全体の約 15%を占める。

②利用者の余暇活動の充実を図るため、年 15 回の土曜日出勤日を活用し、苑内において創作活動・調理・ゲーム・化学実験・エスニック料理パーティ・忘年会等の季節行事を継続して実施した他、療育手帳の提示による文化施設等の無償利用制度を活用し、多摩動物公園、柴又寅さんミュージアム・帝釈天外出を実施し社会体験の場を拡大した。

③利用者の自主性や権利擁護を促進するため、自治会活動「仲間の会」を結成し 10 年が経過した。毎月、仲間の会で施設運営の質を向上させるため、テーマに沿って話し合いの場を設けている。より苑生の主体的な発言を導いていくため、小グループで話し合い後、全体で討議する方法を採用し、仲間の会サポーター職員とアシスタント職員を配置し、きめ細かい対応を実施した。

また、仲間の会が主催となり、7 月に保護者招待行事を企画した。保護者へ懐石膳を振る舞った後、苑生・保護者・職員でゲームを楽しみ、参加した保護者に和三盆糖の干菓子をお土産としてお渡しするファミリーサポートを実施した。

④土曜日出勤の午前中をワーキングスタディ(日常生活を送る上で必要な生活習慣を学ぶ時間)と位置づけ、掃除方法・みだしなみ・対人マナー・非常時の対応・コミュニケーションスキル等についてロールプレイやグループワークを導入しながら体験学習をした。日々の支援やワーキングスタディを通して、苑生の社会性は年々ゆるやかに向上している。

⑤本年度の利用者に支払う平均工賃目標は月額 18900 円、平均工賃支払実績は月額 19106 円であった。

### ⑥神戸スイーツコンソーシアムの受講生に選抜

プロパティシエから焼き菓子やパンの製造技術を月 1 回、6 ヶ月間に亘って享受して頂くプロジェクト「神戸スイーツコンソーシアム」の受講生に苑生 1 名が選抜された。毎月、習った焼き菓子を復習すると共に、仙台市で開かれた修了式にご家族・職員と共

に参加している。

## (2)事業運営

①本年度の授産収益は 4644 万円であった。(前年より約 188 万円の増収。前年比 104%)  
内パン・焼き菓子売上 1594 万円(34.3%)・デザート売上 552 万円(11.9%)、  
お弁当 1428 万円(30.7%)、明光高等学校売店 259 万円(5.6%)、あすなるカフェ 811 万円  
(17.5%)

## ②販路拡大

常勤職員で営業活動を行い、新たな販路 4 ヶ所と取り引きを開始した。

③みずほ福祉助成財団よりモルダー(パンのガス抜き成形機)の助成を頂く事ができた。現在  
2 台のモルダーを稼働させパンの製造を実施している。

## ④横須賀海軍カレーレトルトを商品化

あすなるカフェ、イベント各種において横須賀海軍カレー提督の料理番を年間 2000 kg(約  
1 万食)販売し、お客様より贈答や持ち帰り用にレトルトカレーの販売ニーズが寄せられ  
るようになった。

しかし、設備投資・製造スペースを自施設で確保することが困難な為、レトルトカレー  
製造を手掛ける奈良県の福祉施設(社会福祉法人青葉仁会デリカテッセンイーハトーヴ)  
に製造委託をし、平成 26 年 1 月より百貨店等で販売を開始した。なお、レトルトカレー  
のパッケージ製作にあたってはデザイナーの起用も検討したが資金繰りの目途がつかず、  
デザインの得意な事務職員が担当した。その後、デザイナーに無償でアドバイスを  
得る機会があり、大変良い出来栄であるとお褒めにあずかる事ができた。

## ⑤チャレンジドカップ審査員特別賞受賞

二年に一回、全国の福祉施設が焼き菓子・パン製造技術を競うチャレンジドカップにチ  
ャレンジし、一次選考、二次選考を経て決勝大会に出場する事ができた。

焼き菓子部門においてガトーショコラブラン(ホワイトチョコレートのガトーショコラ)  
の製造に利用者 2 名、職員 2 名(内 1 名障害者雇用)が挑戦し審査員特別賞を受賞した。

また、本大会に向けた苑生の練習から決勝大会に至るまでの様子が日本テレビ「24 時間  
テレビチャリティレポート」で放映された。

## ⑥あすなるカフェの運営状況

昨年あすなるカフェの隣で運営をしていた食堂が撤退したが、新たな業者が食堂の営業  
を開始した。お客様の減少が懸念されたが、ご当地井ぶりフェア(全国の名物井ぶりを

月替わりで提供)、お楽しみ定食(旬を意識した週替わりのメニューの提供)、カレーディ(毎週水曜日は同価格でカレーの大盛りを提供)等様々な工夫を凝らし、お客様の減少を20%程度に留めることができた。

#### ⑦「幸せの太鼓を響かせて」自主上映会開催

昨年、常勤職員7名があすなろ学苑のサービス・質の向上を目指す為、あすなろ向上委員会を発足させた。障害福祉に対する啓蒙活動の推進、あすなろ学苑の活動を地域に発信するため、平成25年5月25日逗子市なぎさホールにて自主上映会「幸せの太鼓を響かせて(長崎県、社会福祉法人南高愛隣会の利用者の経済的・社会的自立に焦点を当てた実話)」を横須賀市、逗子市、横須賀市教育委員会より後援を得て、本委員会が開催した。350枚チケットを販売し、19万875円の収益があった。後援団体より苑生の授産活動に還元するよう指示があり、商標ラベル印刷機を購入した。

#### ⑧横須賀地産弁当を杏林大学外国学部観光交流文化学科学生と共同開発

横須賀の観光誘致の一環として、横須賀の名所、旧跡を巡る横須賀海道ウォークが企画された。三浦半島の産物のみを詰合わせたお弁当の開発を杏林大学の学生と共同開発をし販売を実施した。

#### ⑨農林水産省・厚生労働省主催あすなろ学苑製品販売会の開催

中央官庁(内閣府、財務省、総務省、経済産業省、厚生労働省、国土交通省、文部科学省、防衛省、農林水産省)の官僚を対象にあすなろ学苑の実践発表をする機会を得た。本発表が契機となり、農林水産省・厚生労働省主催のあすなろ学苑製品販売会が10月9日農林水産省にて執り行われた。中央官庁における福祉施設の製品販売会は当方が初めてであり、農林水産省皆川事務次官、厚生労働省村木事務次官も職員・苑生と共に販売に従事した。

#### ⑩中学校三校に対するパン配達事業を開始

4月より坂本中学校、大矢部中学校、神明中学校に対するパン配達事業に着手した。各学校がこれまで取引していた業者と当苑が隔月交代で担当している。本事業に伴い、苑の運営時間を30分繰り上げ7時30分～16時30分に変更し対応にあたった。

しかし、当日の10時に注文が入り、11時30分までに配達しなければならないため、注文データを基に見込み製造せざるを得ず、毎日過不足の調整に追われる状態であった。一年間実施したものの、収益性が低く、また職員の負担が著しく増大された為、断腸の思いであるが、本年度で撤退することになった。

#### ⑪ブログの運営

あすなる学苑の情報発信の一環として、ブログ「あすなる学苑便り」を立ち上げた。常勤職員がイベントや商品案内、あすなる学苑の日々の支援等に関して、毎週一回最新の情報を更新している。

#### ⑫経費削減に向けた取り組み

平成24年度決算において、施設会計が赤字となった。赤字解消の為、機器の保守契約の見直し(最低限の保守契約に削減)、新聞や専門誌の購読中止、レンタルマット・コーヒーマシン等のリース契約中止、職員の時間外労働の削減等に取り組み、人件費、事務費、事業費支出を前年度と比較し332万円削減した。

#### (3)その他

- ①平成25年4月1日より障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律が施行。それに伴い、重要事項説明書の再契約を実施。
- ②指定相談支援事業者が作成するサービス等利用計画策定義務化に伴い、保護者へ説明を行う等の対応を実施。

#### (4)懸案事項

就労継続支援B型事業所に移行後、補助金単価が下がり施設会計が赤字となっている。上述した経費削減に加え、苑生の増員、職員の減員(職員退職後の補充を控える)等を実施してきたが、今年度決算においても依然厳しい経営状態である。

本年度より、苑生・保護者へのサービス低下が起きない程度に、苑の運営方法を変更し、改善に向けた取り組みをしているが、本年度も本状態の解消に至らない事は明白である。

苑生に支払う工賃向上のため、損益分岐点を勘案しながら運営日でない土・日・祝日や平日の夜に職員が出勤し、年間683万円授産会計を増額させる一方で、職員の人件費の大半が施設会計から支出されている事を考えると、イベント出勤は苑生にとってはプラスに作用するが、施設にとっては赤字解消の阻害要因となりうる。

今後、苑生の能力に応じた生産体制に転換する事も視野に入れながら、就労継続支援B型事業所の目的が達成できる方策を検討していく事が急務の課題である。